

平成 25 年度五泉市道徳部 活動報告

部長 佐藤 武志（五泉小）

1 活動のねらい

豊かな道徳性を育む授業を探る。

2 活動内容

○構成的グループエンカウンター講習会

燕市教育委員会学校教育課指導主事 小林 靖直 様を講師として、構成的グループエンカウンター講習会を実施しました。

講習会では、燕市の全小学校で毎朝 10 分程度実施しているという『脳活』についてお話をいただいた。これを行うことで「集中力がアップする！」「1 時間目がスムーズにスタートできる！」という効果があるということでした。また、実践演習では、『クラス会議』の前段に行う「小さな幸せ」と「ほめほめシャワー」を行いました。活動が終わったときには、みんなが笑顔になっていました。

今回の講習や演習を通して、教師から常にプラスのメッセージを発信し続けること、教師が子どもたちをたくさんほめることの重要性を確認することができ、部員一同たくさんの収穫がある研修会となりました。



○授業研究「第 2 学年 あたたかい ところで」資料『ぐみの木と小鳥』

五泉市立五泉小学校 渡部 亜希 先生から授業を公開していただき、授業研究を行いました。

授業は、主発問である「なぜ、嵐の中、リスの所へ届けに行ったのでしょうか。」についての意見交換中心に進められました。この発問の意味が子どもたちに理解されることがこの授業の鍵となりましたが、資料の提示や掲示物の工夫が見られ、十分状況が伝わっているようでした。

展開の後半では、危険を顧みず相手のために行動した小鳥の行動に対する価値を全体で共有するため、小鳥がぐみの木からお礼をいわれた場面を扱いました。子どもたちからは、「ほっとした。」「うれしい。」「いってよかったなあ。」などの意見が出され、子どもたち一人一人がねらいを実感している様子が見られました。この姿からも本授業が子どもたちにとって意味のある授業であったと感じられます。また、部員にとっても渡部先生と子どもたちとのかかわりから多くのことを学ばしていただいた授業でした。

3 成果と課題

道徳の授業を成立させるためには、道徳の時間の指導だけではなく、日常の指導、道徳教育が大切だと考えます。そうした視点から今年度も構成的グループエンカウンター講習会を実施しました。また、そうした講習会や授業研究を通して講師先生や部員同士のネットワークが広がり、明日に生かせる情報交換ができたことが今年度の成果であると考えます。今後、こうしたネットワークを生かし、さらに道徳授業を子どもたちにとって魅力的なものにしていくことが今後の課題です。